

P. 110~111 (スギ36本)
 ———— : 更級郡共和村光林寺大門の松杉木
 P. 112~114 (マツ, 121 本)
 ———— : 長野市湯福神社の樺 P. 114~116
 (ケヤキの大樹, 樹高 18 m)
 岩崎 長思・八木 貞助: 上伊那郡東箕輪村の樺
 P. 116~118 (カヤの大樹, 樹高 22 m)
 小山海太郎: 泉田村の野生八重藤 P. 118~119
 (ヤエフジ)
 ———— : 北佐久郡三都和村塩澤新田に於ける
 苗代桜 P. 120~122 (アズマヒガンの名木)
 ———— : 野澤町の女男木 P. 122~126 (ケ
 ヤキの名木)
 家高荒治郎: 西筑摩郡神坂村荒町の花の木及其自
 生地 P. 143~144 (ハナノキの群落)
 藤澤 直枝: 科野大宮社及其社叢 P. 144~147
 (ケヤキ, イチョウ, スギ等)
 第 25 輯 (1946 - 昭和 21 年) 関係記事なし
 第 26 輯 (1948 - 昭和 23 年)
 八木 直助: 名勝志賀高原 P. 53~67
 ———— : 手長神社のけやき P. 74 (ケヤキ
 の大樹, 樹高 36 m)
 ———— : 中曽根の権現桜 P. 75~76 (エゾ
 ザクラの南限)
 ———— : 桑田薬師の枝垂桜と公孫樹 P. 77
 (シダレザクラ樹高 10.8 m とイチョウ樹高 36 m)
 ———— : 立石寺のこうようざん P. 78~79
 (コウヨウザン, 中国原産)
 ———— : 波田神社のコナラ P. 79~81 (コ
 ナラの大樹, 目通り 4.7 m)
 ———— : 水上神社の小栢と杉 P. 81~82
 (コナラの大樹, 樹高 45 m, スギの大樹, 樹高 62 m)
 ———— : 都住のひゝらぎ P. 82~83 (ヒ
 ラギの大樹, 樹高 10.8 m)
 ———— : 豊丘村延命地藏尊の桜 P. 83~84
 (アズマヒガンの名木)
 ———— : 延徳の八生のかや P. 84~87 (ヒ

ダリマキガヤの大樹, 樹高約 7 m)
 ———— : 西大瀧のえのき P. 87~88 (エノ
 キの大樹, 樹高 17.5 m)
 ———— : 南永江の梨 P. 88~89 (イワテヤ
 マナシの大樹, 樹高 14.6 m)
 第 27 輯 (1949 - 昭和 24 年)
 八木 貞助: 田立の瀑布 P. 103~108 (カナク
 ギノキ, アケボノツツジ等の記録あり)
 ———— : 天照寺のかえで P. 117 (イロハカ
 エデの大樹, 樹高 10 m)
 ———— : 今井家のかつら P. 118~119 (カツ
 ラの大樹, 樹高 33, 40 m の 2 本)
 ———— : 赤門の枝垂桜 P. 120~121 (シダレ
 ザクラの大樹, 樹高 14 m)
 ———— : 小島の「えぞやまざくら」 P. 121
 (木曽三岳村, 分布上貴重)
 ———— : 蛇澤の大桑 P. 122 (クワの大樹,
 樹高 9 m に刈止め, 2 本あり)
 ———— : 徳応院のいぶき P. 122~124 (イ
 ブキビャクシンの大樹, 樹高 15.2 m)
 ———— : 蛇澤の金明竹 P. 124~125 (キン
 メイテク, マダケの変種)
 ———— : 神の木の大榎 P. 125~128 (エノ
 キの名木, 樹高 20 m, 連理あり)
 小山海太郎: 北佐久郡春日村の小野山桜 P. 128
 ~129 (アズマヒガン, 北信地方の最南)
 下川 頼人: 牛伏寺のカラマツ P. 129~130
 (カラマツの大樹, 樹高 50 m)
 ———— : 北内田の大ケヤキ P. 131~132
 (ケヤキの大樹, 樹高 35 m)
 第 28 輯 (1951 - 昭和 26 年)
 下川 頼人: 永寿の松 P. 79~83 (アカマツの
 名木)
 ———— : 古家の大藤 P. 84~86 (フジの大
 木, 樹高 25 m のケヤキにからむ)
 (横内 文人)

〔植物ニュース〕 71. アカザ *Chenopodium*
album L. var. *centrorubrum* Makino
 一昨年、松本市内で、ふとアカザが目についた。
 各地を見歩いて、シロザは多いがアカザに出合う
 ことは稀なので、一株採って帰り、庭の隅に植えた。
 今まで、10 坪ほどの菜園が毎年春夏はシロザ優占の
 群落になる。このシロザ、実は私のところでは、自

然食生活の一環、準野菜に位置付けて優遇している。
 こんなシロザの楽園。その翌年、忽然紅いアカザに
 変ってしまった。シロザは数えるほどしかない。種
 子の数で競争したら、シロザがこれほど負けるはず
 はないと思うのに、こうした同属同志の勝負をきめ
 る何か特別の要因があるだろうか。(浅川富雄)